

道徳だより



テーマ：物事を多面的・多角的に考える…

令和5年12月
京都市立道徳教育研究会
広報部
(第10号)

人生捉え方次第



今朝起きたら、雨が降っていたとします。あなたは、どんな気持ちになりますか。考えてみてください。

「あ～、もう、外出るのが嫌だなあ。憂鬱だ。」

そんな気持ちになるでしょうか。

こう考えてみてください。あなたがずっと欲しかったお気に入りの長靴・レインコートを昨日、買ってもらったとしましょう。それなら雨が降っているのを見たらどんな気持ちになるでしょうか。

私なら、飛び上がって喜びます。「お披露目できる！！ルンルン♥️」

つまり、雨が降ること自体に幸・不幸はないということが言いたいのです。幸・不幸を決めるのは、目の前の現象をどう捉えるか、わたしたちの心だと考えています。もっと言えば、「雨が降る」などの現象は自分の努力で変えることはできません。変えられるのは、その目の前の現象を『どう見るか』『どう考えるか』『どう捉えるか』…私たちの心です。



だから、私は『人生捉え方次第』だと思っているのです。

昔から日本では、この多様な見方・考え方・捉え方を育んできたと思っています。ある時は『とんち』に変え、「この橋をわたるな！」と怒られても「この端（っこ）をわたってはいけないのですね。」と捉え方を変えて、スルっとすり抜けました。ある時は『妖怪』を呼び、「食べ物を残したらだめ！」と言うかわりに見方・考え方を変えて「もったいないおばけ」を登場させました。また、ある時は『落語』というカタチでオチをつけて、すり抜けました。

またまたある時は『笑い』です。『コメディ』です。他にも様々な人生の『捉え方文化』が日本にはあると私は考えています。こうやって、人間はいつの時代も自分の捉え方次第でピンチをチャンスに変えてきたのだと思っています。

ピンチ♪ピンチ♪チャンス♪チャンス♪ランランラン♪



私は、人には誰しも、その人なりの幸・不幸が訪れると考えています。もしかしたら、それは誰にも平等に訪れるのかもしれませんが。しかし、世の中を見てみますと、いつも幸せそうな人っていませんか？いつも機嫌のいい人・感じのいい人っていませんか？あなたの周りを見渡してみてください？そういう人は不幸がないのでしょうか。・・・私は違うと思っている人です。

その人たちにも、同じように悩みや試練が訪れている。けれども、その人たちはその試練に対して、見方・考え方・捉え方をスルスルッと変えて、悩みや試練を自分の成長の糧にしているのだと思います。『見方・考え方・捉え方』名人なのだと思います。そうやって、見方・考え方・捉え方を自分の中で豊かにできると自分の人生、楽しくなるような気がしませんか。どんな辛いことが起きても捉え方をスルッと変えて、幸せに変える生き方。

『辛』い ⇒ 『幸』せ 漢字が似てませんか？

「辛い」ことでも一つ工夫を加えると、「幸せ」に変わる。見方・考え方・捉え方を一つ工夫するだけで、どんなことでも幸せに変えることができる。そう、私は考えています。

先の学習指導要領で、「見方」「考え方」というキーワードが頻繁に使われています。道徳科の目標にも「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の生き方（人間としての生き方）についての考えを深める」とあります。時代は「見方・考え方・捉え方…自らの心」に向いていると私は個人的に考えています。そう考えると、この道徳科の目標が奥深く、読めてきませんか。

人生は長い一本道だとしましょう。その道を歩いていくと、出逢う物事も、出逢う人も避けることはできません。一本道ですから。けれども、自分が幸せの方を向いて歩いているか、不幸の方を向いて歩いているかで、その出来事の結果は大きく変わってきます。

『幸せの方を向いて歩く』 … 私は子ども達にそんな風に伝えています。

誰にだって、嫌なこともある。辛いこともある。けれど、そんな時こそ、これをどのように捉え考えることで、自分が幸せな気持ちになるのか、そんな「ひとり道徳」を楽しみたいと思います。そんな明るい・楽しい教育を進めていきたいと思っています。御一緒しませんか。

